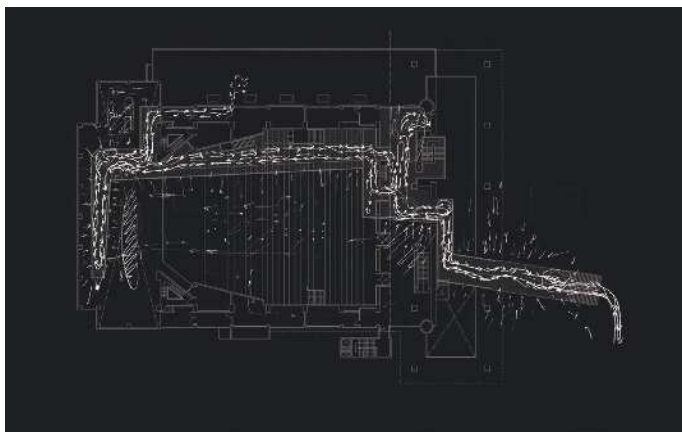
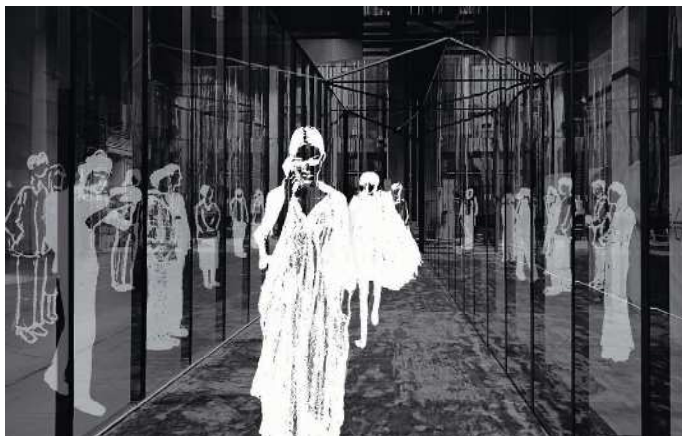


“わたしたち”と服の関係性を問う

別紙

見つめ直すファッションショー”We see us”

■イメージ



ショーに向けたイメージドローイング

■内容

芸術祭メイン会場を舞台に展開するファッションショー。

モデルは、長く人々に親しまれてきた「旧市民会館おおみや」の風景の一部として登場。一時的に会場の導線をランウェイに変貌させる。演出を手掛ける川島拓人のファッションを見つめ直そうとする姿勢は、衣服そのものよりも「人々が風景を作っていく力」にフォーカスする。

生活都市さいたまを舞台とする芸術祭で、日常の視線をひっくり返すファッションショーを開催。

■メッセージ

ご来場いただく際には、もしもよろしければ、ご友人の“発表会”に来るような気持ちと装いをしてきてください！

■キャスト

演出 / クリエイティブディレクター：川島拓人



2015年にクリエイティブエージェンシー「kontakt (コンタクト)」を設立。以降、国内外のファッションブランドなどの広告を手掛けながら、2017年にインタビュー誌『PARTNERS (パートナーズ)』を刊行。本芸術祭では、複数の写真家やさいたま市の小学生と共に、市内で生活する人々を撮影する「ポートレイト・プロジェクト」、メイン会場で開催する“ファッションショー”を企画。

演出：安藤雅晃

スタイリスト：山口翔太郎

2011年にスタイリストとしてのキャリアをスタート。以降、『BRUTUS』や『FIGARO JAPON』、『TANK Magazine』、『modern matter』などの国内外のファッション誌ほか、『AURALEE』や『FETICO』のショーにもスタイリストとして参加する。